

東舞鶴高校における高大連携

古文書とフィールドワークを通してみる舞鶴

京都府立大学文学研究科
博士前期課程 1 回生
水野 拓也

はじめに

2018 年度、京都府立大学歴史学科文化情報学研究室は、京都府立東舞鶴高校との高校・大学の連携授業を行った。主に京都府立大学の舞鶴地域での調査（古文書整理）・フィールドワークから、地域の歴史を中心に各授業を組み立てた。また今回の高大連携授業を通して、普段学んでいる歴史と住んでいる地域の歴史との相互関係を意識し、歴史への興味・関心を高めることを大きな目標としつつ、各授業における個別のねらいを設定した。主に参加者は、文学部の東准教授と院生・ゼミ生と東舞鶴高校の社会科教員廣瀬邦彦先生、金田吉孝先生と、同校の 2 年 4・5 組の日本史・世界史の受講生 61 名である。以下は実際に行った授業の内容と授業を通しての考察・まとめである。

授業の展開

10 月 22 日の授業（授業案 100 分：2 時間分）

- ・ねらい：近代の桐実生産から舞鶴地域の地名と産物の特徴をつかむ
- ・授業方法：パワーポイント・加佐郡白地図・郡村誌桐実分布図・加佐郡誌桐実生産の表・「加佐郡村名地図」・青と緑色のシールを使用したグループワーク

・実施した授業

| 学習内容 | 主な学習活動 | 時間 (分) | 支援及び留意点 | 評価の観点・方法・項目 |
|------|--|-----------|-----------------------------------|---|
| 着席指導 | 本時の座席を指定し作業に向けての準備を行う。 7 グループに分かれて、ワークショップの時に作業を行う。 | 5 | ○グループで作業をすることを話し、周囲の友達と確認し合うよう促す。 | 【知識・理解】 ◆舞鶴の地名や桐実の歴史について理解できている。 ◇桐実の分布や規模から植生や要因を考察し、知識を身につけている。 【技能・表現】 ◆「気づいたこと・学んだこと」が 1 つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 |

| | | | |
|--------------|---|----|--|
| 趣旨説明 | 大学教員からの趣旨説明など | 5 | ○自己紹介や本時の説明などを行い内容の確認を行う |
| 大学生生活と研究について | 学生・院生から普段の大学生生活や研究についての紹介を行う。 | 10 | ○紹介を聞いて、疑問などがあれば作業中に回答するように配慮する(時間超過に注意する) |
| 舞鶴の桐生産 | 幕末から明治にかけての舞鶴での桐実生産をパワポを用いて説明する。 ①映画「海賊と呼ばれた男」より油の用途をイメージさせ、ロケ地として登場した舞鶴との身近さを持たせる。 ②その後、桐実の画像・実物を見せる。 ③全国の桐実の生産量をグラフにしたものを提示し、産業としての規模を理解させる。 | 10 | ○事前に作業担当の学生がテーブルの周囲にいて、適宜補足を加える。(時間超過に注意する) |
| ワークショップ | 加佐郡白地図に、桐実生産の表をもとに村名ごとの生産量を記述していき、舞鶴の地名と桐実の分布を視覚的に理解し、どの様な所に多いかなどに注目し、考察させる。 | 20 | ○郡村誌のコピーを見せ、記載情報の資料を具体的にイメージさせ、普段の大学生生活を引き合いに出しながら作業を開始する。 ○生徒の知っている地名を答えてもらえるように促す。 ○わからない地名に関しては、適宜生徒と競い合うように地名を指し意欲の向上に配慮する。 ○生産高の表示には適宜シールを使用しても良い。 |
| 休み時間 | | 10 | |
| ワークショップ | 同上 | 25 | ○現在の舞鶴の地図と白地図を比較させ、どのような場所に分布しているか(高低差や植生)に注目して、田地の条件なども適宜説明を行い、考察を促す。 |
| 発表とまとめ | 白地図から考察した内容をいくつかのグループをあて、発表させる。 その後、パワポを使い、桐の分布と植生について説明を行う。 | 10 | ○できる限り、植生・高低差などの条件以外が出た場合積極的に取り入れる。 ○他のグループで出た内容があれば適宜記述するように促す。 |
| アンケート | 本時についてのアンケートの実施。 | 5 | 感想や要望を記入してもらい、率直な意見を書いてもらえるようにする。 |

11月12日の授業（授業案50分：1時間分）

- ・ねらい：「西国巡礼略打道中記」の古文書読解を通して江戸時代の街道の様子を考察し、史料の特性・性格から刊行物の一般民衆化をみる
- ・授業方法：パワーポイント・「西国巡礼略打道中記」・明治26年地形図・国土地理院地図・レジュメを使用し、道中記に示された道筋を現在の地図と合わせて考察する。

・実施した授業

| 学習内容 | 主な学習活動 | 時間(分) | 支援及び留意点 | 評価の観点・方法・項目 |
|---------|--|-------|---|--|
| 着席指導 | 本時の座席を指定し作業に向けての準備を行う。 | 5 | ○グループで作業をすることを話し、周囲の友達と確認し合うように促す。 ○時間調整に注意する(早く終われば、作業説明もしくは、ワークショップに5分追加する)。 | 【知識・理解】 ◆学校近辺の街道について理解ができてい る。 ◇「道中記」という史料の性質・特徴を理解できている。 ◆いくつかの「くずし字」を読むことができる。 【技能・表現】 ◆「気づいたこと・学んだこと」が1つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 |
| 作業説明 | 本時の作業内容についての説明を行う。 【発問】「江戸時代の道について、調べるとしたら何をを使うか？」→【生徒の反応】「地図(古地図・国絵図)など」 【発問】「国絵図をみながら現在の道を想像できるか」→【生徒の反応】「難しい・可能」 →次に「道中記」の記載内容(どのような情報が記載されているかなど)を紹介する。 | 5 | ○過去の街道について「国絵図」から文字史料へと注意を促し、「道中記」の性質などの説明はせず、街道について記載されていることのみ紹介する。 | |
| ワークショップ | ①「道中記」を使用しながら、現在使用されている地図と明治時代に作成された地図を使用し江戸時代の街道のルートを考察させる。 ②「道中記」自身の性質・特徴について文字や絵図などに注目し、考察させる。 ③何文字か指定された「くずし字」の読解を行う。 | 20 | ○ルート考察の際に、周囲の村や寺の情報を与えながら考察を促す。 ○「道中記」の文字(平仮名・片仮名・漢字)の配分や史料の対象(誰のために記述したのか・どのような目的で作成されたのか)は何なのかをコピーを用いて考察させる。 ○複数人の指導補助が行える場合は、生徒をいくつかのグループに分けて、少数での考察・作業を行えるようにする。 ○「くずし字」の読解に関しては、紙に崩されていく過程を書きながら解説する。 | |

| | | |
|-----|---|--------------------------------|
| まとめ | 前方で、パワポを用いて、ルート15の考察結果を共有し、「道中記」の解説を行う。 | ○江戸の出版物や庶民の旅行について言及し、史料の理解を促す。 |
|-----|---|--------------------------------|

1月21日の授業（授業案 100分：2時間分）

- ・ねらい：「作方年中行事」の翻刻文を中心に当時の年中行事と村での生活の実態をみる。作業を通して、朝廷の行事が江戸時代には、民衆への浸透をみせることを取り上げる。
- ・授業方法：パワーポイント・「作方年中行事」の翻刻文・1月カレンダーを準備し、現在・近世の餘部上・成生両村の正月における行事・作業などを記入し、現在・または村と村を比較し、考察する。

・実施した授業

| 学習内容 | 主な学習活動 | 時間(分) | 支援及び留意点 | 評価の観点・方法・項目 |
|------|---|-------|---|---|
| 着席指導 | 本時の座席を指定し作業に向けての準備を行う。 | 2 | ○グループで作業をすることを話し、周囲の友達と確認し合うように促す。 ○時間調整に注意する(早く終われば、作業説明もしくは、ワークショップに5分追加する)。 | 【知識・理解】 ◆2つの史料から一定の情報抜き出し、語句の理解と比較検討が行える。 ◆正月の作業と生業の関係に気づくことができる。 【技能・表現】 ◆「気づいたこと・学んだこと」が1つ記述でき、本時のねらいを理解したと認められる。 ◆史料からカレンダーの作成と行事内容がまとめられている。 |
| 導入 | 本時に際して、教科書における農民の生活、太陽暦・太陰暦、不定時法、十干十二支についての概説をパワポを用いて行う。 | 8 | ○特に史料にある「朝七ツ時」などは作業を行う際に再度確認し、現在との差異を指摘する。 | |
| 作業説明 | 本時の作業内容について説明を行う。 【発問】「200年前の舞鶴ではどんなお正月を過ごしていたのか？上の欄に記入する」 →【生徒の反応】 「お年玉、初詣、羽根つき、カルタ」など →「作方年中行事」（餘部上・成生）と1月のカレンダー、舞鶴村別地図を配布し、当時の年中行事についての記載をみる →行事・作業・休日などをカレンダーに記載する | 5 | ○現在のお正月で行う物事や何日までを正月と認識しているかなど、現在のお正月のイメージを持たせる。 | |

| | | |
|---------|---|--|
| ワークショップ | ①「作方年中行事」の餘部上・55 成生の兩村の記述をそれぞれ 記入していく。 ②記載されている年中行事に ついて辞書や討論をふまえて、 調べる。 ③2つの村の年中行事の違い について考察する。 | ○行事や作業の内容を適 宜補足説明を行い理解を 促す。 ○2つの村を対比的に見 ながら記載内容への議論 を展開させるようにする。 ○記載されている村の立 地条件を意識させるよう に発問を行う。「この村は どのようなところにある のだろうか」 ○古代・中世における年 中行事の有無などを想起 させるように発問を行う。 |
| まとめ | ①配布した地図から2つの村 を見つける。 ②兩村の生業の違いから作業 が異なること ③雑煮・どんど焼・七草など の朝廷文化（年中行事）の民 衆への浸透を指摘 ④狐狩りなどの舞鶴独自の行 事の解説 | ○ワークショップの作業 をふまえて、①から④の 内容についてグループへ の問いかけを行う。 ○作業の内容をふまえて、 古代から現代における年 中行事や村の生業につい て通史的にまとめる。 |
| 文書調査の案内 | 普段実施している古文書調査 への案内を行う。 | ○場所・日時やどの程度 の作業を行うか明確に指 示する。 |

2月18日の授業（50分：1時間分）

- ・ねらい：4回の授業のまとめとして、学生の進路決定の過程をそれぞれ、パワーポイントにして紹介し、進路への具体的なイメージを持つ。
- ・授業方法：パワーポイント・アンケート用紙を使用し、センター試験や筆記試験以外の小論文を活用した様々な受験方法について考察する。

・実施した授業

3回生が5分ほど自身の高校生活・大学を受験した理由などを紹介し、続いて大学院生・4回生が同様に自身の経験を紹介した。その後、東先生自身の高校時代・学生時代の話を通して、自身のキャリア形成の過程で得た経験・今後の舞鶴での調査や関心について25分程度発表した。その後、高校の先生から、受験勉強についての質疑応答が行われた。

授業を通して

2018年度の京都府立大学・東舞鶴高校との連携授業は、2月までに4回実施した。授業ごとに時間が1から2時間分と変化することもあった。

1回目は大学・高校とも最初の授業ということもあり、大学の紹介などに時間をあてたが、作業は近代の史料を用いて、史料から抽出したデータを使用して授業を行うというものであった。この教科書の情報だけを使って作業するのではなく、史料からの考察を取り入れることによって、以後の授業への円滑化や近世・近代の史料を身近に感じてもらうことを狙いとしたものである。

2回目の授業においては、江戸時代における一般民衆の出版文化や旅行の増加など文化史的な内容から、実際の史料のコピーを配布して、翻刻文は用いるものの記載されている絵や内容から現在との関わりを意識させることを狙いとした。一般的に古地図などの資料から地理的な内容や歴史を体験する授業は多いものの、「道中記」という文字情報が主体のものを用いて、授業を行うことで、地図とは異なり、経路や場面の経過などを想起させるようにした。

3回目の授業では、現在の正月と江戸時代の正月を舞鶴地域の村を例に比較を行い、現在に残っているものや消失してしまったものなどを取り上げた。ここから朝廷の年中行事が江戸時代には一般民衆にまで浸透していたことや、現在との断絶などを意識してもらうことを狙いとした。

以上の高大連携授業を通して、古文書調査の成果を利用し、その地域の史料を使うことで当該地域の地域史教育の役割を果たす一方、高校教育で大きく扱う政治史とは異なり、一般民衆の立場から歴史像や年中行事・出版文化などの通史的な歴史を紹介することができた。これは、昨今の高校教育での歴史総合や、まだ社会科での記述式の導入はされていないが、大学入学共通テストにおいても社会科思考力・判断力・表現力の獲得を目指す中で、社会科の授業でその能力を養う際に、史料を使った授業形式は効果的ではなかろうか。

また高大連携授業を通して、大学教員が抱く研究者の目線と高校教員が持つ目線の差異を調整する重要性を感じた。これは、専門的な物事を題材に一定の知識や関心のある学生を対象に行う大学の授業と、様々な興味・関心を持つ高校生を対象とする高校の授業の生徒層の違いと扱う範囲の違いなどを考慮する。そして、専門的な物事を理解しやすいようにし、研究者としての物事の面白さを高校生に伝える工夫を行えるようにすることで、より効果的な連携授業が実施できると感じた。そのような効果的な授業を行うには、高校教員が研究者の関心への理解や知識の蓄積、逆に大学教員も研究の成果や内容を高校生が理解できるように授業を組み立てるといった課題があるだろう。

表紙の解説

| | | | |
|-----|---|-----|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| 5 | | 4 | |
| (裏) | | (表) | |

- 1 「舞鶴の歴史アラカルト」パンフレット
- 2 文書蔵出し調査風景 東昇撮影
- 3 舞鶴地方史研究会との共同調査 東昇撮影
- 4 舞鶴クレインブリッジ 松岡秀雄氏撮影
- 5 東舞鶴高校での授業風景 廣瀬邦彦氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ～)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山域の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 15 沖縄の宗教・葬送儀礼・戦没者慰霊



京都府立大学文化遺産叢書 第16集
舞鶴の地域連携と世代間交流
井上奥本家文書調査報告

編集 東 昇
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
発行日 2019年3月30日
印刷